

病防第16号の2  
平成28年5月31日

各 { 関係機関の長  
市町村長（農務関係課）  
農業協同組合長  
農業共済組合長  
病虫害防除員 } 様

岐阜県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報（地区情報）の送付について

別紙のとおり予想されますので、指導上の参考にしてください。

記

平成28年度 病虫害発生予察情報（美濃地域） 6月予報

所 属	岐阜県病虫害防除所 防除指導係		
係 長	桑 原	担 当	佐 藤
TEL	058-239-3161（直通）		
FAX	058-234-0767		

# 病虫害発生予察情報

## 平成28年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

### 【 水稲 】

#### いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生 (6月4半旬頃) の7~10日前に粒剤施用を行ってください。なお、補植苗はいもち病の発生源となるため、すみやかに除去をしてください。

### 【 カキ 】

#### カキノヘタムシガ (カキミガ)

今年の見取り調査によると、1回目成虫の発蛾最盛期は5月17日 (平年 5月23日) と平年より6日早く、発生量は樹あたり3.4頭 (平年 2.1頭) でした。近年、発生期間が長期化しており、防除適期を逃すと被害が拡大するため注意してください。例年発生が多いほ場では、1回目散布のさらに7~10日後に追加防除をしてください。

### ○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (6月)

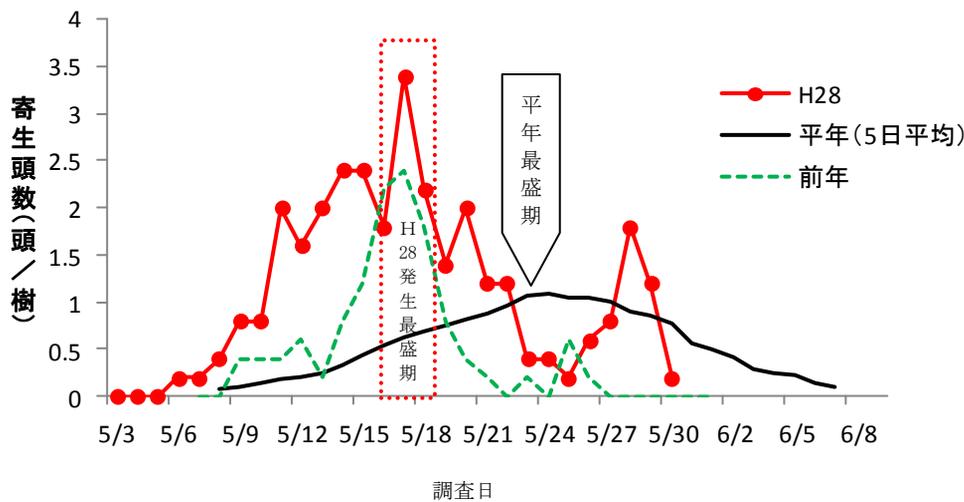
	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
水稲	生育(岐阜市)		<田植え>						・ハツシモ (普通植)
	葉いもち	並				<初発生>			・箱施薬を実施する。
	縞葉枯病	並			<初発生>			・ <b>縞葉枯病</b> 感受性品種では、縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。	
	ヒメトビウンカ	多		<第1世代成虫>				・ <b>ヒメトビウンカ</b> 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。	
	イネミズゾウムシ	少	<第1世代幼虫孵化最盛期>						
	ニカメイガ	少		<第1世代幼虫>					
	防除適期		~ ■葉いもち・ヒメトビ・イネミズ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ						
カキ	生育(岐阜市)	やや早							・富有：開花最盛期 5/17 (平年5/22)
	ハマキムシ類	多		<第1世代成虫>					・ <b>ハマキムシ類</b> 幼虫発生初期 (6月4半旬頃) の防除を徹底する。
	カキノヘタムシガ	多						・ <b>カキノヘタムシガ</b> 発蛾最盛期5/17 (平年5/23 岐阜市)	
	フジコナカイガラムシ	やや多				<第1世代幼虫>			・ <b>フジコナカイガラムシ</b> 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。
	防除適期		▲フジコナカイガラムシ						
ナシ	黒星病	多			<果実発病最盛期>				・ <b>黒星病</b> 発病が散見されるほ場では確実に防除を実施する。
	防除適期		黒星病 ▲ ~ ▲						
モモ	せん孔細菌病	やや少			<発病拡大期>				・ <b>せん孔細菌病</b> 春型枝病斑が確認される場合は摘果時に取り除く。
	ナシヒメシンクイ	多		<第1世代成虫>					・ <b>ナシヒメシンクイ</b> 新梢伸長期 (4月下旬~6月下旬) の防除に重点をおく(早生)。
	防除適期		▲せん孔細菌病 ナシヒメシンクイ ▲						
果樹	カメムシ類	やや多	<越冬世代成虫>						・夜温が高い場合、突発的にほ場へ飛来する恐れがあるので、注意する。
	防除適期								
茶	生育(池田町)	やや早				<二番摘採期>			・やぶきた：一番茶摘採期4/25 (平年4/29)
	岐阜西濃	ハマキムシ類	やや少		<第1世代成虫>				・幼虫発生初期の防除を徹底する。
		チャノホソガ	やや少	<第2世代幼虫>					・ <b>チャノホソガ</b> 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。
		防除適期		▲チャノホソガ		ハマキムシ類▲			
	中濃	ハマキムシ類	多					<第1世代成虫>	
	チャノホソガ	並				<第1世代成虫>			
	防除適期								
野菜類	コナガ	やや少							・同一系統薬剤の連用は避ける (薬剤抵抗性の発達)。
	アブラムシ類	並							・ <b>アブラムシ類</b> 定植時に粒剤を施用する。
	防除適期								

病害虫名 (防除適期)		生育状況 発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設 トマト	灰色かび病	多	調査ほ場で発生量の増加が認められ、引き続き発生に注意する。 (発病果率0.9%)	・発生初期の防除を徹底する。 ・施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。
	葉かび病	並	調査ほ場で発病が認められる。曇天が続く場合は発生量が増加すると考えられる。 (発病小葉率6.8%)	
野菜 キュウリ	べと病	並	調査ほ場で発病が認められる。梅雨時期となるため、今後の増加に注意する。 (発病葉率1.5%)	・ <b>葉かび病</b> 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 ・ <b>うどんこ病</b> 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。
	褐斑病	少	調査ほ場で発病が認められる。罹病品種では今後の発生に注意する。 (発病葉率0.2%)	
	うどんこ病	並	調査ほ場で発生量の増加が認められ、引き続き発生に注意する。 (発病葉率5.8%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

## カキノヘタムシガ (カキミガ)



カキノヘタムシガ (カキミガ) 幼虫

カキノヘタムシガ見取り調査 (1回目成虫)

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を転食したのち、ヘタ部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると薬液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の発蛾最盛期は5月17日と平年より6日早く認められ、防除適期は5月下旬頃と予想されます。

なお、防除を実施する際は、[病害虫情報第5号](#) (カキノヘタムシガについて) も参考とし、確実に実施してください。

## 果樹カメムシ類 (主にチャバネアオカメムシ)

調査地点名	吸汁果率 (%)	
	5/中	5/下
岐阜市	86.7	成熟落果
池田町	20.0	63.3
美濃市	66.7	66.7
美濃加茂市	46.7	83.3

果樹カメムシ類は、春先、サクラなどの果実を餌として生育します。カメムシ類によるサクラ果実への吸汁率が75～80%を超えると餌として適さなくなり、果樹園などへ飛来します。

本年のサクラ果実吸汁率調査では、5月中旬および下旬調査で、指標となる75%を超えた地点が認められ、今後、果樹園へ飛来する可能性があります。

特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時(日没後2時間位)に活動が活発となるため、園内をよく観察し、発生が認められたら防除を実施してください。

## 6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

## 東海地方1カ月予報 (名古屋地方気象台 5月26日発表)

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並の見込みです。前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。